県内9か所の農業改良普及センターからの新鮮な現地情報をお届けいたします。

みやぎの　６月号
農業普及現場

普及活動標語
思いを形に,あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.172　2021.6

紹介内容（5/1～5/31）

１．みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

①　先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
○　登　米農改：登米市産花きと生花店のコラボ企画第３弾「母の日」特別販売会開催
○　気仙沼農改：ねぎといちごの販売拡大による経営の安定化にむけた定例会の開催
○　農業振興課：中山間地域における精密,省力なスマート水稲種子生産技術の実証がスタート
○　栗　原農改：栗駒山麓の深山牧野で放牧が始まりました
○　大　崎農改：大崎ワイナリーを訪問し，販売促進等について意見交換しました

②　新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
○　大　崎農改：令和３年度初の大崎４Ｈクラブ定例会が開催されました
○　大　崎農改：新規就農者のサポート訪問を行いました
○　石　巻農改：農業大学校生が地元の普及センターの取組を学びました！
○　登　米農改：令和３年度宮城県農業大学校入校生の「普及センター訪問」が開催されました
○　大河原農改：みやぎ未来塾（地域農業紹介講座）を開催しました
○　仙　台農改：新規就農者のサポート巡回を行いました

③　先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
○　大　崎農改：直進アシスト田植機による省力田植作業が行われています

④　園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
○　栗　原農改：りんご凍霜害被害に関する果樹生育情報号外を発行しました
○　亘　理農改：母の日にユニクロイオンモール名取店で地元産「名取のカーネーション」をＰＲ
○　大　崎農改：いちご親株苗増殖ほの巡回指導を実施しました！
○　亘　理農改：増田ねぎ出荷組合の出荷全体会に出席しました
○　亘　理農改：亘理地域にて「りんごの摘果講習会」が開催されました
○　登　米農改：ＪＡみやぎ登米そらまめ部会現地検討会が開催
○　亘　理農改：亘理地域にて「シャインマスカット栽培研修会」を開催しました
○　亘　理農改：ＪＡみやぎ亘理いちご育苗講習会を開催しました！
○　栗　原農改：ズッキーニの現地検討会が開催されました
○　石　巻農改：ぶどう栽培講習会
○　大　崎農改：令和３年産えだまめの播種作業が始まりました
○　石　巻農改：地元食材を活用するレストランシェフに，地元野菜の生産現場を紹介しました

⑤　収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
○　美　里農改：令和３年産麦類の現地検討会が開催されました
○　大　崎農改：水稲採種農家の育苗巡回指導を実施しました
○　気仙沼農改：今年も元気に育成牛が放されました－気仙沼市本吉放牧場－

このニュースレターは，ホームページ(カラー版)でご覧になれます。https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu

⑤　**収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援（続き）**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
○　栗　原農改：水稲優良品種決定現地調査（栗原）の田植えを行いました
○　登　米農改：小麦採種ほの第１期ほ場審査を実施しました

２．時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給
①　**時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援**　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
○　気仙沼農改：清流「蔵の華」廿一会の育苗現地検討会を開催しました
○　石　巻農改：水稲優良品種決定調査の田植え
○　気仙沼農改：優良品種決定現地調査の田植え作業を行いました

３．多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築
①　**地域資源の活用等による地域農業の維持・発展**　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
○　大河原農改：中山間地における集落営農組織法人化に向けた勉強会の開催
○　大河原農改：丸森町町営牧場子牛育成センター竣工式が行われました

４．その他
①　**要請・緊急対策，その他**　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
○　仙　台農改：関係機関の新規採用職員への特別ゼミを開催しました

このニュースレターは，ホームページ(カラー版)でご覧になれます。https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu

１．人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○登米市産花きと生花店のコラボ企画第３弾「母の日」特別販売会開催
令和3年5月11日
登米農業改良普及センター

登米市は，花き生産額が県内でもトップクラスで，様々な切り花や鉢物が生産されています。これまで登米普及センターでは，登米市内花き生産者と生花店と連携した商品づくりを企画・提案し，「いい夫婦の日」「バレンタインデー」のイベント時に販売会を実施してきました。

今回は「母の日」向け商品を企画し，５月６日に県登米合庁，登米市役所等の職員に特別販売会として，花の注文販売を行いました。「母の日は，日ごろの感謝の気持ちを込めて，春色の可愛いお花をプレゼントしてみませんか」をテーマに，地元産のばらの切り花を生花店のプロの技で綺麗にアレンジしたスタンディングブーケやラッピングしたペラルゴニウム及びカーネーションの鉢物を多くの方々に購入していただきました。

当日はテレビ局の取材もあり，購入者からは「普段の感謝の気持ちを込めてプレゼントしたい」「地元生産者のために今後も協力したい」などのコメントが寄せられました。今後も，花の産地「登米市」のＰＲ，地元産花きの販売促進に向けた支援を行っていきます。

○ねぎといちごの販売拡大による経営の安定化にむけた定例会の開催
令和3年5月11日
気仙沼農業改良普及センター

気仙沼市のシーサイドファーム波路上株式会社は，杉ノ下地区畑地の担い手として平成 28 年７月に設立され，ねぎといちごの栽培に取り組んでいます。

普及センターでは平成 31 年度からプロジェクト課題を立ち上げて支援を行っており，その一環として毎月定例会を開催しています。本年度はねぎ・いちご各部門それぞれ４月 22 日，23 日に第１回目の定例会を開催し，さらなる安定生産と生産工程の改善に向け，進捗確認や管理履歴の振り返りによる課題の洗い出し，対応方策等の検討を行いました。

５月以降，いちご部門では令和４年産管理作業計画の作成と親株管理優良事例の視察，ねぎ部門では秋冬どり栽培の管理支援，春どり栽培の播種計画作成支援を行っていきます。

○中山間地域における精密,省力なスマート水稲種子生産技術の実証がスタート
令和3年5月25日
農業振興課

県では，農業生産性の向上や省力化を図るため，スマート農業技術を含むＩＣＴを活用したアグリテックを推進しています。これまで，主に平坦部におけるスマート農業技術の実証を行ってきました。

新たな取り組みとして，令和２年度から農林水産省の「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」により，水稲採種事業を行う宮城県加美町の農事組合法人「いかずち」を実証農場とした，「中山間地域における精密,省力なスマート水稲種子生産技術の実証」に取り組んでいます。

「いかずち」の水稲採種ほで，実証するスマート農業技術の一つである直進アシスト田植機による田植えが始まり，５月 14 日に試験研究機関や現地の大崎農業改良普及センターの実証メンバーと作業状況を確認しました。オペレーターへの聞き取りでは，直進アシスト機能のおかげで作業がはかどり，田植えは順調とのことでした。

このほ場では，この後，自動操舵機能付き水田除草機による効率的な異株・雑草除去の実証を行うほか，水田遠隔水制御装置と水田センサによる水管理省力化や，農業用ドローンによる防除作業効率化の実証を順次行っていく予定です。

○栗駒山麓の深山牧野で放牧が始まりました
令和3年5月27日
栗原農業改良普及センター

５月 25 日，栗原市営深山牧野（栗原市栗駒文字地区）で放牧が開始されました。
深山牧野は栗駒山を望む眺望のすばらしい牧場です。昭和４５年に開牧した歴史ある牧野で，県内でも有数の公共牧場であり，和牛産地である栗原畜産の核となっています。今年も栗原市内の農家から約 100 頭が預託されます。放牧は，広大な飼料基盤の活用のみならず，繁殖機能回復や牛の健康維持，飼養農家の生産コスト低減等に大きな役割を果たしています。和牛の経営は，経済情勢の変化，飼養管理者の高齢化，担い手の不足等，厳しい状況にありますが，このような施設を積極的に活用しながら，経営が発展することが期待されます。

○大崎ワイナリーを訪問し，販売促進等について意見交換しました
令和3年5月31日
大崎農業改良普及センター

大崎ワイナリーでは，令和２年２月に果実酒の醸造免許を取得し，地元大崎市内の自家農場で生産された生食用ぶどうのみを使用した珍しいワインを製造販売しています。
今回は，ワインの販売促進活動等について意見交換を行いました。生産開始から間もないために販路の拡大を課題にしていることから，販売フェア・販売店等の情報提供を関係部署と連携しながら行うこととしました。
製造・販売責任者の喜藤孝徳さんは，「あっさりとした味わいが特徴で，日頃から食卓にあり，地元の方を中心に多くの方々に愛されるワインになって欲しい」との思いをお持ちです。

５月上旬からは，「醸室（かむろ）」内物産観光センター「DOZO（どーぞ）」（大崎市古川七日町）でみやぎクラフトワインフェアが開催されており，他地域のワイナリーのワインとともに大崎ワイナリーのワイン（白・ロゼ。※赤完売）も販売されています。是非一度ご賞味ください。

②新たな担い手の確保・育成

○令和3年度初の大崎4H クラブ定例会が開催されました
令和3年5月7日
大崎農業改良普及センター

大崎４Ｈクラブの令和３年度初の定例会が，４月 20 日（火）に大崎合同庁舎で開催され，クラブ員 14 名が出席しました。４Ｈクラブとは若手農業者が主体的に資質向上と相互交流をはかる活動組織であり，今年度入会した３名の新会員との初顔合わせとなりました。
定例会は，会員の自己紹介に始まり，６月から行われる親子農業体験など，今年度上半期の活動予定などが話し合われました。メンバーからは農業技術の向上に向け，現地視察も含む活動について活発な意見が出され，活動への意欲の高さが伺えました。
普及センターでは，今後も４Ｈクラブの活動支援を行っていきます。

○新規就農者のサポート訪問を行いました
令和3年5月10日
大崎農業改良普及センター

４月 19 日及び 20 日に，農業次世代人材投資資金の交付を受けている新規就農者に対してサポート訪問を関係機関とともに行いました。

サポート訪問は栽培技術や経営ノウハウ等に関する小さなつまずきを早期に解消し，新規就農者のスムーズな定着につなげることを目的としています。

今回のサポート訪問では 19 日に野菜農家を２戸，20 日に畜産農家を４戸巡回しました。トマトやナスを栽培する農家では，今後の養液の管理について指導を行いました。和牛の繁殖農家では，１年１産に向けた飼養管理や分娩房の環境整備について指導を行いました。

普及センターでは今後も関係機関と連携し，新規就農者の定着支援に取り組んでいきます。

○農業大学校生が地元の普及センターの取組を学びました！

令和3年5月10日
石巻農業改良普及センター

今年，宮城県農業大学校に入学した，石巻管内出身者３名が普及センターを訪問しました。この行事は，毎年行われているもので，普及センターの業務や管内の農業の特徴を知り，将来就農する際に役立てて欲しいという趣旨で行われているものです。

当日は，当センター職員が業務内容，重点的に取り組んでいる活動内容，プロジェクト課題として被災農地で営農する方々への支援，法人の組織力アップ，にこにこベリーやアスパラガスの栽培支援を行っている等を説明しました。また，管内の特徴について，栽培規模が大きい経営体や大区画圃場が多いこと，園芸品目の栽培が多いことなどを説明しました。

農大生からは，普及員はやりがいがあるかという質問があり，県職員の中でも普及指導員は，直接農家や人に接し，支援出来る珍しい仕事。直接感謝の気持ちを伝えてもらえ，支援を行うやりがいを感じる。何かあったら，是非声をかけてほしい旨を伝えました。

今後は，夏以降に，農大生の管内農家での派遣学習が行われる予定で，希望する農家での研修が出来るようマッチング活動を行います。

○令和3年度宮城県農業大学校入校生の「普及センター訪問」が開催されました

令和3年5月12日
登米農業改良普及センター

４月 23 日（金），登米合同庁舎において，令和３年度宮城県農業大学校に入学した登米市内出身学生２名の「普及センター訪問」が行われました。

普及センター職員からは，学生に対し管内の農業概況のほか，登米地域の就農支援体制や関係機関の支援事業，営農助成等について説明しました。

また，登米市４Ｈクラブ員も出席し，年間行事の取組状況やクラブ員の営農状況などが事例紹介され，市内への就農やクラブへの加入を勧誘しました。

今年の入校生は，実家が畜産農家ではありませんが，高校で畜産を専攻し畜産学部に入学した学生です。農大卒業後は，畜産の農業法人へ雇用就農を希望しており，そのため学生からは，畜産全体の課題や学生の間に取り組んでおくべきことなど，将来に向けた質問があり，その回答に熱心に聞き入っていました。

○みやぎ未来塾（地域農業紹介講座）を開催しました

令和3年5月13日
大河原農業改良普及センター

４月 23 日（金），宮城県農業大学校の管内出身の１年生４名（アグリビジネス学部と園芸学部）を対象に，「みやぎ農業未来塾（地域農業紹介講座）」を開催しました。

はじめに農業改良普及センター職員から，農業改良普及センターの役割や仙南地域の農業の現状，就農支援の仕組み等について説明しました。また秋に予定している先進農家研修の参考になるよう，管内の先進的な経営で６次産業等に取組む角田市の合同会社あぐりっとかくだ及び蔵王町の果樹農家の特色ある経営体を紹介しました。

参加した学生は，最初緊張した面持ちで話しを聞いていましたが，次第に緊張がほぐれ，活発な質疑応答が交わされました。また今後行われる体験学習についても参考になったようです。

○新規就農者のサポート巡回を行いました
令和3年5月25日
仙台農業改良普及センター

４月 26 日(月)から５月 13 日(木)にかけて，仙台市内の農業次世代人材投資事業を利用する新規就農者を対象に，仙台市，ＪＡ仙台とともにサポート巡回を行いました。

対象者は就農１年目から５年目までの農業者で，大半が露地野菜を栽培しており，忙しく育苗･定植作業を行っていました。また，ほ場は，作付前の準備をしているところや，苗の定植を終えたばかりのところ，越冬した作物の収穫を待つところなど，様々な状態でしたが，しっかりと管理されており，農業への熱い意気込みが感じられました。

対象者は農作業だけでなく，よりよい経営に向けて，年間作付計画の作成や，栽培品目の見直し，規模拡大に向けた検討に着手する姿も見られました。

普及センターでは今後も，関係機関と連携しながら，新規就農者含め，地域の担い手の確保・育成に努めていきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○直進アシスト田植機による省力田植作業が行われています
令和3年5月25日
大崎農業改良普及センター

測位衛星を使った高精度測位(D-GNSS)により，直進時に自動運転アシストする田植機が「直進アシスト田植機」です。この機能を装備した田植機での移植作業により，作業精度の向上とオペレーターの作業負担の軽減，省力化などが図られます。

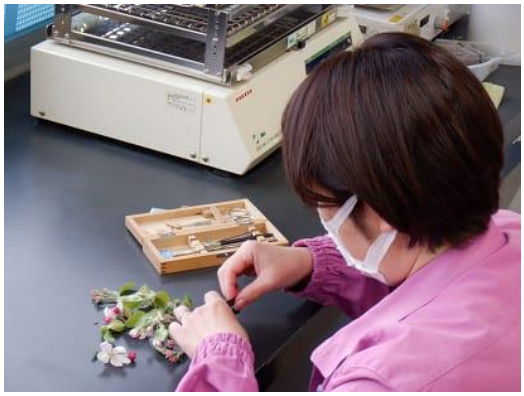
加美町で種子生産を行っている農事組合法人いかずちでは，国のスマート農業実証プロジェクトを活用し，ＩＣＴを活用したスマート水稲種子生産に取り組んでいます。写真は，直進アシスト田植機での作業風景です。直進作業中はハンドル操作をする必要がないため，オペレーターの疲労度や負担の軽減が図られ，大面積経営にはメリットがあると思われます。

この実証事業では，今回紹介した田植のあとの除草作業で，自動操舵付き水田除草機を使い，水稲種子生産で人手が多くかかる異株除去作業の時間短縮を実証する予定です。

この他，ドローン２台の協調散布による防除作業や用水のかけひきを遠隔水管理制御装置で行い，水管理時間の削減を実証する取り組みなどを行う計画ですので，今後もご期待ください。

④園芸産地の育成・強化支援

○りんご凍霜害被害に関する果樹生育情報号外を発行しました
令和3年5月6日
栗原農業改良普及センター



栗原管内では 4/9～11，4/15～16 に寒気が入り，りんごにおいて開花直前の花に凍霜害が発生しました。管内でも特に生育ステージが早かった地域では被害が大きく，今後収量への影響が懸念されます。

現場では生産者の高齢化等に伴い，燃焼法や散水凍結法など凍霜害に対応する技術を実施できない生産者が多いことから，各自が被害状況を確認し，その被害状況に応じた適切な栽培管理が必要となっています。そこで，生産者に対し被害状況を確認するよう促したほか，果樹生育情報号外を発行し，被害を受けた後の栽培管理法について周知しました。

本年の生育は平年より 6～9 日早く，その分凍霜害に遭遇する危険性が高い状況となっています。本格的に開花期を迎えるこれからの時期も，まだまだ油断できません。

普及センターでは今後もタイムリーな情報提供，技術指導により，果樹の安定生産を支援して参ります。

○母の日にユニクロイオンモール名取店で地元産「名取のカーネーション」を PR

令和3年5月18日
亘理農業改良普及センター

５月９日の「母の日」に合わせ，株式会社ユニクロのイオンモール名取店において，名取市花卉生産組合が名取のカーネーションのＰＲを行いました。

これは，５月５日から９日までの間に同店で商品を購入した来店客に地元特産のカーネーションをプレゼントする企画に名取市花卉生産組合が協力したもので，名取産を表示したステッカーを付けたカーネーション計 300 本を先着で１人１本プレゼントしました。

店内の一角には，カーネーションをモチーフにした名取市のマスコットキャラクター「カーナくん」を配置し，東北一の生産量を誇る「名取のカーネーション」を紹介するコーナーを設けていただきました。花きの分野においても，産地表示が消費者の商品選択の指標となれば，ブランド化の手段にも成り得ると考えられ，今後，普及，定着が期待される取組です。

普及センターでは，関係機関と連携し，花きの産地表示の取組を今後も継続して支援してまいります。

○いちご親株苗増殖ほの巡回指導を実施しました！

令和3年5月19日
大崎農業改良普及センター

５月 13 日にいちご親株苗増殖ほの巡回指導が開催され，みやぎ農業振興公社及び農業・園芸総合研究所とともに，管内のもういっこ親株生産者のほ場で，生育状況の確認を行いました。

これまでの生育は順調に進み，病害虫の発生もありませんでした。農業振興公社から，今後の管理として，ランナーの誘引を開始するタイミングや，薬剤散布及び施肥のタイミングについて詳しい指導がありました。

今後も現地巡回をとおした最適な管理の支援によって，来年産いちごのより高品質な親株生産が行われることが期待されます。

○増田ねぎ出荷組合の出荷全体会に出席しました

令和3年5月19日
亘理農業改良普及センター

亘理農業改良普及センターでは，地域の野菜生産支援の一環として，５月 14 日名取市増田ねぎ出荷組合の出荷全体会議に出席しました。

ねぎは，周年で出荷されていますが，４月以降は抽苔（とうだち）してしまうことから，この地域ではこの時期の出荷のために「坊主不知ねぎ」の栽培を行っています。昨年からほ場に作付けしている「坊主不知ねぎ」の６月上旬からの出荷を前に，出荷全体会議を行いました。

会議では，ＪＡ名取岩沼の担当者や生産者が集荷時期や検査体制，出荷規格の確認等を行いました。その後，生育状況等の確認のために各生産者のほ場を巡回し，生育状況や白根の長さを確認しました。今年の生育は病害の発生が少なく，わずかにアザミウマ類の発生は見られましたが，全体的には白根の長さも十分にあり，良いものに仕上がっていました。これらのねぎは，６月上旬から，仙台市場に向けて出荷される予定です。

普及センターでは，今後も農業生産者の生産活動を支援してまいります。

○亘理地域にて「りんごの摘果講習会」が開催されました

令和3年5月19日
亘理農業改良普及センター

亘理管内は県内有数のりんご生産地で，この時期，各りんご園では，摘果作業が精力的に進められています。

この作業に先立ち，５月 18 日にＪＡみやぎ亘理逢隈支所果樹部主催で摘果講習会が実施され，19 名の生産者の出席がありました。

講習会では，普及センターから，摘果の目的や予備摘果の重要性，その後に実施する仕上げ摘果のポイント等を指導しました。

当地域では，今年，りんごの開花期間に強風や低温の日があったため，一部，結実が良くない園地も見られますが，管内全体では概ね平年並みに結実しています。

普及センターでは，今後も定期的な巡回指導や各地域で開催される現地研修会等で技術指導を行い，当地域の高品質なりんごの安定生産を支援していきます。

○JAみやぎ登米そらまめ部会現地検討会が開催

令和3年5月20日
登米農業改良普及センター

５月 11 日，ＪＡみやぎ登米そらまめ部会の部会員 15 名が参加し，登米市米山町と豊里町のほ場で現地検討会が開催されました。

今回の現地検討会は，３月の現地検討会と同じほ場で行い，その後の生育の経過を確認しました。今作は適度な雨にも恵まれたため，順調に生育が進んでいますが，これから生育後半にかけて病害虫の発生により品質を落とすことが無いよう，普及センターから適切な防除について説明し，部会員が再確認しました。早いほ場では５月下旬から京浜市場を中心に出荷が始まる見込みです。今年も良質なそらまめの出荷が期待されます。

○亘理地域にて「シャインマスカット栽培研修会」を開催しました

令和3年5月26日
亘理農業改良普及センター

亘理農業改良普及センターでは，シャインマスカット栽培技術の向上と省力化を目的に，プロジェクト活動に取り組んでいます。

５月 21 日，プロジェクトで支援する生産者等を対象にした「第１回シャインマスカット栽培研修会」を，農業・園芸総合研究所を会場に開催しました。

研修会では，果樹チームの庄子技師より，シャインマスカットの芽欠きや花穂形成，無核化処理の技術について，実演を交えて説明がありました。生産者からの質問もたくさんあり，意欲の高さが感じられました。また，各参加者のほ場での生育状況や今年度の技術目標等について情報交換の場を設け，地域内の生産者の交流を深めました。

普及センターでは，今後も研修会の開催や個別巡回等により，当地域のシャインマスカットの普及拡大を支援していきます。

○JAみやぎ亘理いちご育苗講習会を開催しました！

令和3年5月26日
亘理農業改良普及センター

５月 20 日，ＪＡみやぎ亘理いちご部会が，令和４年産いちごの育苗管理について支部ごとに３回に分けて講習会を行い，32 名の出席がありました。

講習会では，普及センターから親株と子苗のかん水・肥培管理，病害虫防除対策のポイントについて説明を行いました。令和３年産のいちごはまだ収穫中ですが，生産者は次作に向けて，これから育苗管理を本格的に始めていきます。また，県庁の園芸推進課より，みやぎ園芸特産振興戦略プランのいちご 100 億円産地の育成に向けた取組内容について説明がありました。

普及センターでは，今後も関係機関と連携し，いちごの産出額向上に向けて，支援していきます。

○ズッキーニの現地検討会が開催されました
令和3年5月27日
栗原農業改良普及センター

５月 19 日(水)，ＪＡ新みやぎ栗っこズッキーニ部会の現地検討会が栗原市瀬峰・築館・金成の３ほ場で開催され，部会員 24 名，種苗会社，普及センターの担当者が出席しました。

種苗会社からは，ズッキーニの栽培技術のポイントとして，露地栽培は定植が始まったばかりのため，まずは長期間の収穫に備えて体づくりを行い，ハウス栽培は出荷が４月中旬頃から始まっているので，追肥をしながら樹勢を維持するよう話がありました。普及センターからは，病害虫防除として，病害虫の発生しにくい環境づくりを心がけることや，これから発生が多くなる褐斑細菌病について，特徴や防除方法の説明を行いました。今年新たにズッキーニの栽培を始めた方も検討会に参加し，ほ場を見ながら熱心に質問をするなど活発な意見交換が行われました。

普及センターでは，販売額１億円に向けて，継続して支援を行っていきます。

○ぶどう栽培講習会
令和3年5月28日
石巻農業改良普及センター

ＪＡいしのまきでは直売所などの販売品目拡大のため以前から果樹の新植を進めており，新たに果樹の栽培を始める生産者も増えてきています。なかでも皮ごと食べられる食味に優れたぶどう「シャインマスカット」の栽培面積は水稲育苗ハウスへの作付けなどにより年々増えており，直売所に出荷する生産者も多くなっています。ＪＡと普及センターではこのような生産者の栽培技術向上のため，毎年季節ごとに基礎的な栽培技術に関する講習会を開催しています。

令和３年度第１回目となる今回の講習会は，昨年と同様に新型コロナウイルスへの感染防止のため，日時・会場を分散し，５月 25 日・26 日の２日間にかけて３会場に分けて開催しました。

石巻地区では５月下旬はぶどうの花が咲く時期となりますが，今回の講習会ではこの時期の重要な作業である無核化（いわゆる種なしぶどうにする作業）について普及センター職員から説明を行いました。

９月中旬以降，管内の直売所では生産者の皆さんが丹精込めて育てた「シャインマスカット」をはじめ石巻圏域産のぶどうが販売されますので，是非お買い求めいただき，御賞味くださいますようお願いします。

○令和3年産えだまめの播種作業が始まりました
令和3年5月28日
大崎農業改良普及センター

５月中旬から，大崎市古川地区でえだまめの播種作業が始まりました。播種後は気温も高く，適度な降雨もあったことから，出芽は良好です。また播種作業は，早生品種，中生品種，晩生品種の順に行われ，６月中旬まで続きます。収穫は早生品種で７月下旬頃から始まり，主に仙台市場に出荷されます。古川産のえだまめを見かけましたら，是非ともご購入をお願

いします。
普及センターでは，良質なえだまめの安定生産と産地発展に向け，引き続き支援を行っていきます。

○地元食材を活用するレストランシェフに，地元野菜の生産現場を紹介しました
令和3年5月31日
石巻農業改良普及センター

今春に石巻市にオープンした，レストラン「アル・ケッチァーノ石巻」の高橋シェフより，新たに取引できる野菜生産者を紹介して欲しいと普及センターに依頼がありました。そこで，東松島市で昨年から新規就農者として施設ミニトマトと露地アスパラガス栽培に取り組んでいる津田さんを紹介しました。
津田さんからは，ミニトマトは味や特性の違う３品種を栽培しており，直売も行っているため消費者の反応をダイレクトに聞くことが出来ることや，アスパラガスは７月から今年２回目の収穫を予定していること，４月に収穫したアスパラガスはとても甘く，アスパラガス栽培は初めてであるが，魅力を感じていること等説明していただきました。
高橋シェフには収穫中のミニトマトを試食提供し，品種ごとの味の違いや甘さ等を感じていただきました。アスパラガスについても地場産ということで鮮度や甘さが期待できることから注目しているようでした。今後の取引につながることが期待されます。
今後も，様々な機会をとらえて石巻地域の野菜の魅力発信や実需者とのマッチング支援を行って参ります。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○令和3年産麦類の現地検討会が開催されました
令和3年5月6日
美里農業改良普及センター

４月に入り，鹿島台地区は 15 日，南郷地区は 16 日，涌谷地区は 19 日，松山地区は 21 日と，管内各地で麦類の現地検討会が開催され，田植え準備など農作業で忙しい中，多くの生産者が参加しました。
昨年に引き続き感染症対策のため会議室等での座学は最小限とし，現地ほ場での巡回調査・検討に重点を置いて開催されました。
現地検討会では，各生産者のほ場を巡回して生育状況を調査し，減数分裂期追肥の時期や施肥量等を中心に検討しました。今年は，冬の寒さが厳しかったことから，昨秋の播種時期の遅早により，生育の進みに大きな差が見られました。
麦類の栽培においては，今回の追肥判断の後も，赤かび病の防除や適期収穫など，収量や品質に大きく影響する時期が続くので，普及センターでは今後も麦類の安定生産のために継続して支援していきます。

○水稲採種農家の育苗巡回指導を実施しました
令和3年5月7日
大崎農業改良普及センター

大崎普及センター管内には，県内の水稲生産者が使用する「種子」＝「たね」を生産する水稲採種組合が４組織あり，これらの組合で「ひとめぼれ」，「ササニシキ」及び「まなむすめ」など，農家が来年の水稲生産に使う「種子」の生産を行っています。
今年も，翌年以降のお米を生産するための「たね」づくりが始まっており，大崎普及センターでは，優良種子の生産に向けた農家指導と種子審査を行っています。
４月 20 日から 28 日にかけては，は種された原種（種子をつるための種子）を使った苗の状況や「ばか苗」などの種子伝染性病害がないか，他の品種や原種以外の種子と混じったりする恐れがないかなどを確認し，併せて良質な苗が生産され田植後の生育が良好となるよう指導・助言を行いました。
４月 28 日は加美町で種子生産を行っている農事組合法人いかずちの育苗指導を実施しました（写真）。この組合は，中山間地域でＩＣＴを活用したスマート水稲種子生産にも取り組んでおり，国のスマート農業実証プロジェクト（Ｒ２～Ｒ３年度）により，種子生産にかかる作業時間の４割削減を目指しています。
普及センターでは，こうした効率的で精密な種子生産の確立支援も含め，本県農業の持続的な発展と良質な米生産に欠くことのできない優良な「たね」の生産を推進しています。

○今年も元気に育成牛が放されました
－ 気仙沼市本吉放牧場 －
令和3年5月10日
気仙沼農業改良普及センター

気仙沼市本吉放牧場は昭和 44 年の開牧以来，福島第一原子力発電所事故に対応した草地除染の取組時期を除き放牧事業を実施してきました。今年度も地域の酪農家から預託された約 60 頭の乳用牛が，放牧地に元気に放されました。毎年行われていた入牧式・獣魂祭が新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため中止となりましたが，管理主体である農事組合法人モーランドでは，広い放牧場で牛が運動することにより，農家の期待に応えられる足腰の丈夫な牛となって預託農家のもとへ返せるよう大事に管理したいと意気込んでいます。

なお，放牧場に併設されている『モーランド･本吉』には，動物とのふれあいや乳製品加工体験施設，美味しい牛乳が飲めるレストランもあり，気仙沼・本吉地域の酪農・畜産をＰＲする拠点施設となっています。

○水稲優良品種決定現地調査（栗原）の田植えを行いました
令和3年5月17日
栗原農業改良普及センター

５月 13 日（木），栗原市高清水地区において「令和３年度水稲優良品種決定現地調査」の田植えを担当農家，栗原農業改良普及センター職員で行いました。

本調査は，「主要農作物種子条例」（令和２年４月１日施行）に基づき，主要農作物（稲，大麦，小麦及び大豆）の優良な品種を決定することを目的に実施されるものです。水稲の現地調査は，県内９か所（８普及センター）で行われ，北部平坦地帯の１か所を栗原農業改良普及センターが担当します。

本年度は，「東北２３５号」など５種類の系統・品種の田植えを行い，将来新品種候補となる可能性を秘めた苗を丁寧に植えていきました。

普及センターでは，今後，出穂期・耐倒伏性などの栽培特性に関する調査を行う予定であり，現場で要望される水稲品種のニーズ把握に努めてまいります。

○小麦採種ほの第１期ほ場審査を実施しました
令和3年5月26日
登米農業改良普及センター

５月 22 日，出穂期を迎えた令和３年産小麦採種ほの第１期ほ場審査を行いました。

管内には，小麦の種子を生産する法人が２つあり，迫町の１法人で「シラネコムギ」7.6ha，豊里町の１法人で「あおばの恋」2.2ha を生産しています。

今回は，異株や種子伝染性病害の有無，生育状況に異常がないか，といった点について審査を行うとともに，優良種子生産に向けて，病害虫防除や今後の肥培管理のポイントについて助言を行いました。２品種ともに，異株等の異常は見られず，生育も順調で全面積合格となりました。糊熟期となる第２期ほ場審査は，６月 22 日に予定しています。

普及センターでは，今後も優良種子生産について支援を行ってまいります。

２．農畜産物の安定供給

①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○清流「蔵の華」廿一会の育苗現地検討会を開催しました
令和3年5月18日
気仙沼農業改良普及センター

５月 10 日に，清流「蔵の華」廿一会の育苗現地検討会を開催しました。本会は，気仙沼市新月地区において酒米品種「蔵の華」の栽培に取り組んでおり，気仙沼市内の２つの蔵元に全量出荷しています。

現地検討会では，各会員の育苗施設を巡回し，育苗状況を確認しました。４月の低温による生育遅れも現在は回復し，すでに田植えを行った会員もいました。育苗中の会員には田植えまでの水や温度管理，田植えを実施した会員には本田の水と雑草管理についての助言等を行いました。

出席した会員からは，高品質米栽培だけでなく，高密度播種や肥効調節型肥料の使用といった省力技術導入への意欲も示され，普及センターも重点活動として継続して支援を行っていきます。

○水稲優良品種決定調査の田植え
令和3年5月21日
石巻農業改良普及センター

５月に入り，強風の日があったものの，好天が続き，県内では水稲の田植え作業が順調に進んでいます。

石巻地域では，５月 13 日時点で約７割の田植えが完了しました。当普及センターでは，５月 14 日に県の優良品種決定調査現地試験（５品種・系統）の田植えを行いました。田植え機による植え付けの後，６名の職員で補植を行いました。

今は手植えをする機会がないので，腰を曲げての作業は重労働です。昔の人は大変だったんですね。今後は，出穂期や収量性，玄米品質などを評価して，有望度を判定します。実りの秋が楽しみです。

○優良品種決定現地調査の田植え作業を行いました
令和3年5月25日
気仙沼農業改良普及センター

年々変化する社会情勢や環境，様々な米需要に対応するため，本県でも水稲の品種改良に取り組んでいます。本県に適する品種を選定するため，その育成過程では，現地のほ場で実際に栽培を行い，栽培適性や収量，品質といった形質等を確認する必要があります。

普及センターでは，本県稲作の試験研究を担う古川農業試験場と協力して，現地ほ場での栽培試験を実施しています。県内で収集された調査データを基に，優れたものが「優良品種」としてデビューします。

気仙沼管内では，５月 17 日に４つの系統の田植えを行いました。今後，対照品種のひとめぼれと比較して調査を行っていきます。

３．持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○中山間地における集落営農組織法人化に向けた勉強会の開催
令和3年5月28日
大河原農業改良普及センター

５月 25 日，中山間地域である川崎町古関地区の集会所において，集落営農組織として法人化を目指す古関集落の農業者９名が集まり今年度２回目の勉強会が開催されました。

構成員や法人の形態などチェックリストをもとに進捗状況を確認し，秋に予定している法人登記に向け今後のスケジュールや検討事項について話し合いました。特に保有する機械や作業料金について，法人化した際の経営収支計画をもとにオペレーター候補者でさらに検討し，次回の勉強会で具体案を検討することになりました。また，法人化に向け農業経営相談所の専門家からアドバイスをいただくことも了承されました。

大河原農業改良普及センターでは，法人化に向けた勉強会を支援するとともに法人設立後の運営や営農計画の実現に向け支援していきます。

○丸森町町営牧場子牛育成センター竣工式が行われました
令和3年5月28日
大河原農業改良普及センター

５月 20 日（木），丸森町町営牧場において子牛育成センター竣工式が行われました。丸森町営牧場は福島県に接する宮城県最南端，丸森町筆甫地区にあります。標高 500ｍを超える場所に昭和 46 年設置され，農事組合法人丸森町酪農振興組合が管理している牧場です。

竣工式が行われた育成センターは，３ヶ月齢以上の子牛を入牧し，６ヶ月齢まで育成するもので，その後，放牧します。また，和牛子牛については，丸森町町営牧場から直接子牛市場への出荷が可能になりました。この育成センターの活用により，農家の負担が減り，畜産経営の安定や規模拡大が期待されます。

４．その他

①要請・緊急対策，その他

○関係機関の新規採用職員への特別ゼミを開催しました
令和3年5月25日
仙台農業改良普及センター

５月 20 日，普及センターと連携して農業者の指導等に携わる機会が多い，公益社団法人みやぎ農業振興公社の新規採用職員等６名を対象に，特別ゼミが開催されました。

みやぎ農業振興公社では，新規採用職員を７年ぶりに採用したこと，また，多くの職員が非農家出身であることから，その人材育成に向けての基本方針を策定し，新任期の職員育成のための研修の一環として，普及センターに講師の要請があって開催されたものです。当日は，一般社団法人宮城県農業会議の新規採用職員２名も参加しました。

特別ゼミでは，普及センター所長が講師となり，「みやぎの農業の特徴」，「みやぎ食と農の県民条例基本計画」，「宮城県農政部の組織と業務」，「令和３年度宮城県農業行政の概要」について講話を行いました。

終了後，出席した新規採用職員からは，「宮城県の農業や行政のあり方，普及センターの業務等について理解することができた」との感想がありました。

この特別ゼミを通じて，みやぎの農業振興のためには，普及センターのみならず，関係機関の人材育成も必要であることの確認をすることができました。

普及指導員が県内9か所の普及センターで，農業者を支援しています。

＜大河原＞
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

＜亘　理＞
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

＜仙　台＞
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

＜大　崎＞
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

＜美　里＞
〒987-0005
美里町北浦字笹舘5
TEL:0229-32-3115

＜栗　原＞
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

＜登　米＞
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

＜石　巻＞
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

＜気仙沼＞
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068

＊各農業改良普及センターには，「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら，上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場　NEWS LETTER　No.172
発行日:2021 年 6 月 25 日
発　行:宮城県農政部農業振興課
編　集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837　FAX:022-211-2839
E-mail ： gbfs@pref.miyagi.lg.jp